



防衛省 防衛研究所

National Institute for Defense Studies
Ministry of Defense

NIDS

Tokyo Japan

目次

防衛研究所の役割	1
沿革	2
組織	3
調査研究	
安全保障に関する調査研究	4
● 研究課題	4
● 政策シミュレーション	5
戦史に関する調査研究	6
● 研究課題	6
● 戦史・戦史史料の編さん	7
幹部自衛官及び幹部職員に対する教育	
● 防衛研究所の課程教育	8
● 安全保障戦略課程	9
● 安全保障戦略特別課程	9
国際交流	
● 研究・教育における交流状況	10
● 多国間の国防大学校長等会議への参加	10
● 国際会議の主催	11
戦史史料の公開	
● 戦史研究センター史料室	12
● 史料閲覧室	12
● 史料室の取り組み	12
研究成果の発信	
● 出版物	13

防衛研究所の役割

防衛研究所は、防衛省のシンクタンクであるとともに、我が国唯一の国立の安全保障に関する学術研究機関です。安全保障や戦史に関する調査研究を行うほか、戦史史料の管理・公開を担っています。また、諸外国の国防大学に相当する教育機関として、防衛省・自衛隊の幹部及び他省庁の職員等への教育を行っています。

2022（令和4）年12月に国家安全保障会議及び閣議で決定された国家防衛戦略において、「防衛研究所を中心とする防衛省・自衛隊の研究体制を見直し・強化し、知的基盤としての機能を強化する」こと、また、防衛力整備計画において、「防衛研究所を中心とする防衛省・自衛隊の研究・教育機能を一層強化するため、国内外の研究・教育機関や大学、シンクタンク等とのネットワーク及び組織的な連携を拡充する」ことや「防衛研究所においては、部隊の中核となり得る優秀な人材の確保・輩出のため、サイバー領域等を含む教育・研究の内容及び体制を強化する」ことが掲げられました。

また、2021（令和3）年8月、防衛研究所は、文部科学大臣から科学研究費補助金取扱規程に規定する研究機関としての指定を受け、防衛研究所の研究者が科研費に応募できるようになりました。これにより、防衛研究所の研究能力の向上、科学コミュニティへの一層の貢献が期待されます。

これからも防衛研究所は、安全保障・防衛に関する議論の醸成や国家安全保障に関する政策支援のため、さまざまな取組みを推進していきます。



防衛研究所F1棟エントランス



防衛研究所F1棟正面

沿革

- **1952** 昭和27年8月 保安庁保安研修所として発足
- **1954** 昭和29年7月 防衛庁防衛研修所と改称
- **1956** 昭和31年5月 陸上自衛隊幹部学校より戦史室を編入
- **1985** 昭和60年4月 防衛庁防衛研究所と改称
- **2007** 平成19年1月 防衛省防衛研究所と改称
- **2011** 平成23年9月 企画部を新設するとともに、研究部を政策研究部、理論研究部及び地域研究部に、戦史部と図書館（史料室）を戦史研究センターに改編
- **2016** 平成28年8月 目黒から市ヶ谷の新庁舎に移転
- **2026** 令和8年4月 理論研究部を先進領域研究部に改編



組織 （令和8年4月現在）



企画部	総務、人事、会計、調査研究及び研修の総合的な企画及び調整
政策研究部	我が国の防衛政策、諸外国の国防政策、戦略理論、グローバルな安全保障及び防衛マネジメント等伝統的な安全保障に関する調査研究
先進領域研究部	宇宙、サイバー・電磁波における安全保障、経済安全保障及び先進技術等の軍事利用等の安全保障に関する調査研究
地域研究部	国際関係及び諸外国の情勢に関する調査研究
教育部	幹部自衛官その他幹部職員への安全保障に関する教育
戦史研究センター	戦史に関する調査研究、戦史の編さん及び戦史史料の管理・公開・調査研究
特別研究官 (国際交流・図書担当)	自衛隊の管理及び運営に関する基本的な調査研究に係る国際的な交流並びに図書
特別研究官 (政策シミュレーション担当)	自衛隊の管理及び運営に関する政策シミュレーション

調査研究

安全保障に関する調査研究

グローバルなパワーバランスが大きく変化し、政治・経済・軍事等にわたる国家間の競争が顕在化し、ロシアによるウクライナ侵略など、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序への挑戦が続く中、我が国にとって普遍的価値と戦略的利益等を共有する同盟国・同志国等と協力・連携を深めていくことが不可欠です。そのような状況の中で、防衛研究所の果たすべき役割の重要性も増えています。

防衛研究所は、多様な学問的バックグラウンドを有する文官の研究者と軍事的知見・実務経験を有する自衛官の研究者が協力して、我が国の安全保障に関する諸問題についての調査研究を行っています。



国外の研究機関との意見交換風景



ブリーフィング風景

研究課題

防衛研究所の研究は、現在の日本を取り巻く流動的な戦略環境に対応するよう配慮しており、日本の安全保障に深く関わるテーマとして、例えば、次のような課題に取り組んでいます。

防衛力の整備・運用・制度等に関する調査研究

防衛戦略、抑止力、同盟協力、軍事戦略、防衛マネジメント（防衛組織の効率的・効果的な運用の在り方を研究する分野）などに関する調査研究を実施しています。

先進領域における安全保障課題

ウクライナ戦争等の近年の事例にみられるように、宇宙・サイバー空間・電磁波領域のいわゆる新領域、さらにはドローンやAI等の先進的な技術の活用が現在の戦争の様相に大きな影響を及ぼす重要な要因となっています。防衛研究所ではこれらの先進領域の問題が安全保障に及ぼす影響に関する調査研究に取り組んでいます。

地域の安全保障情勢

我が国の主要な安全保障上のパートナーであるインド太平洋の地域諸国を取り巻く戦略環境や我が国の安全保障に重要な影響を及ぼす各国・地域情勢について、軍事、外交、内政、経済を含めた総合的な観点から独自の分析を行っています。その対象は米国、中国、朝鮮半島、ロシア、東南アジア、豪州、南アジアから、中東や欧州、アフリカにまで広がります。

政策シミュレーション

政策シミュレーションとは、仮想的なシナリオを設定し、そうした状況に置かれたときに、自国がどのように対応すべきか、関係国はどのように対応してくるかを議論することで、具体的な政策課題に取り組む際のアイデアを導き出す手法です。特に米国において大きく発展し、国防・外交当局の政策（戦略）策定の現場において広く取り入れられています。

特別研究官（政策シミュレーション担当）及び政策シミュレーション室は、防衛研究所が有する高度な専門知識と研究力を活用し、シナリオの作成、参加者間の討議の進行（ファシリテーション）、報告書の作成などを含む、政策シミュレーションの企画・運営を担っています。また、外国研究機関等とも連携し、共同研究を実施するとともに、最新の技法を習得・研究しています。

● 政策シミュレーションの様子



政策支援におけるシミュレーションの活用



国際会議（コネクションズ・ジャパン）におけるシミュレーション展示

戦史に関する調査研究

戦史研究センターは、わが国最大の戦史に関わる調査研究部門として、防衛政策や自衛隊の教育訓練のニーズに適切に応えるため、国内外における戦史の調査研究を行っています。

特に、現在、そして将来における国家の安全保障環境や安全保障問題を考察する際の基盤を提供するものとして必要不可欠です。また、過去、相互に影響し合っていた国家間において歴史認識に関する意見交換を行うことは、将来における相互の関係を維持・促進する上で大きな意味を持っており、過去の戦争をめぐる諸外国の歴史認識も重要な研究課題となっています。このため、防衛研究所は現在、歴史研究の活動において国際比較のアプローチを採ることによって、狭い意味での「日本戦史」や「外国戦史」の枠にとらわれずに調査研究の幅を広げるよう尽力しています。



研究会の風景



国外の研究機関との研究交流

研究課題

最新の研究動向、史料をもとに戦史に関わる歴史事実を常に検証し続けるとともに、現在の日本の安全保障政策に歴史的視点から寄与するために、次のような課題に取り組んでいます。

先の大戦に関する戦史の更なる研究

新たに公開された史料、最近の研究成果を生かすとともに、外国の視点も取り入れて、先の大戦に関する戦史を更に研究しています。

戦後日本の安全保障政策史への取り組み

既に歴史となりつつある自衛隊の創設・発展過程を含めた戦後日本の安全保障政策についての調査研究のほか、「オーラル・ヒストリー」を作成しています。

国際紛争史の調査研究

世界各地で生じた国際紛争について、今後の安全保障政策・自衛隊の教育訓練に資する歴史的教訓を提供するために、調査研究を実施しています。

戦史・戦史史料の編さん

「戦史叢書」の刊行

先の大戦に関する戦史を編さんした「戦史叢書」は、戦史研究センターの前身である戦史室が、自衛隊の教育又は研究の資とすることを目的に、1966（昭和41）年から1980（昭和55）年にかけて全102巻を刊行したもので、防衛研究所ホームページで閲覧できます。



過去を教訓に、現在に生かす



戦史叢書

「オーラル・ヒストリー」の編集

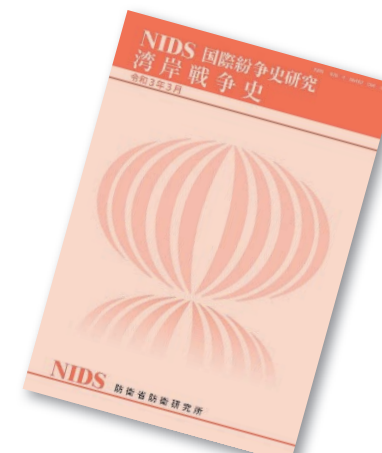
我が国の戦後安全保障政策に関して、過去の出来事を当事者から聞き取り、記録に留めるという「オーラル・ヒストリー」の編集・刊行に力を入れています。

国際紛争史の編さん

世界各地で生じた国際紛争に関する調査研究の成果を活用して、「フォークランド戦争史」や「湾岸戦争史」を刊行しています。



オーラル・ヒストリー



湾岸戦争史

海外における戦史史料の調査・収集事業

戦史編さんには、現在明らかであるとされる史実の検証に加え、これまで明らかとなっていない史実の発掘を絶え間なく積み重ねていく必要があります。特に海外では時間の経過とともに、戦史史料が公開されてくることから必要な戦史史料の調査収集に力を入れ、新たな史実の発見に努めています。

幹部自衛官及び幹部職員に対する教育

防衛研究所の課程教育

防衛研究所では、防衛省の幹部自衛官及び幹部職員に対し、戦略的課題を整理・分析し構造化する能力、仮説を構築し・検証し・創造的に戦略を提示する能力、説得力ある戦略を発信し・実現する能力の涵養等を重視した安全保障戦略課程と安全保障戦略特別課程の2つの課程教育^(注)を毎年、実施し、これまで多くの安全保障ストラテジストを輩出しております。

(注) 防衛研究所では、令和6年度に開始する課程から、これまでの一般課程を「安全保障戦略課程」に、特別課程を「安全保障戦略特別課程」にそれぞれ進化させ、名称変更しました。



教育風景

教育課程名	期間	研修員
安全保障戦略課程	10ヶ月間	【部内】 幹部自衛官（1佐クラス）、事務官等（本省内部部局課長補佐クラス） 【部外】 国の行政機関職員、地方自治体の職員、民間企業の社員、外国からの留学生（大佐・中佐クラスの軍人等）等
安全保障戦略特別課程	約3週間	【部内】 幹部自衛官（将補・1佐クラス）、事務官等（本省内部部局課長クラス） 【部外】 国の行政機関職員、地方自治体の職員、民間企業の社員等



第1期安全保障戦略課程修了式



講義風景（駐日オーストラリア大使）

安全保障戦略課程

安全保障戦略課程においては、総合的・網羅的な安全保障に関する知識を、部内外の専門家から約20の講座（約150の講義）により、インプットするとともに、テーマを絞った約30のセミナーによりこれらの知識の更なる深化を図ります。

また、これらと併せて、政策シミュレーション等を通じ、アウトプットすることで、知識の定着と戦略立案能力・実現能力等の向上を図るとともに、国内外の現地研修や各政党の安全保障政策について国会議員の方々から直接お話を伺う機会等も設けています。

なお、本課程の修了に加え、政策研究大学院大学において一定の単位を履修等した場合に修士（政策研究）の学位が付与される戦略研究プログラム（SSP）も設けており、毎年約10名の研修員が修士号を授与されています。



国外現地研修（オーストラリア）



政策研究大学院大学（GRIPS）秋季学位記授与式

安全保障戦略特別課程

安全保障戦略特別課程においては、直近の安全保障に係る政策課題を踏まえて定める研修テーマの下、部内外の専門家から、約10講座（約20講義）により知識のインプットを図ります。

また、これと併せて、本課程においては、これらインプットした知識に基づき、班別・全体の討議や政策シミュレーション等を行い、知識の定着と戦略立案能力・実現能力等の磨き上げを行います。



講義風景



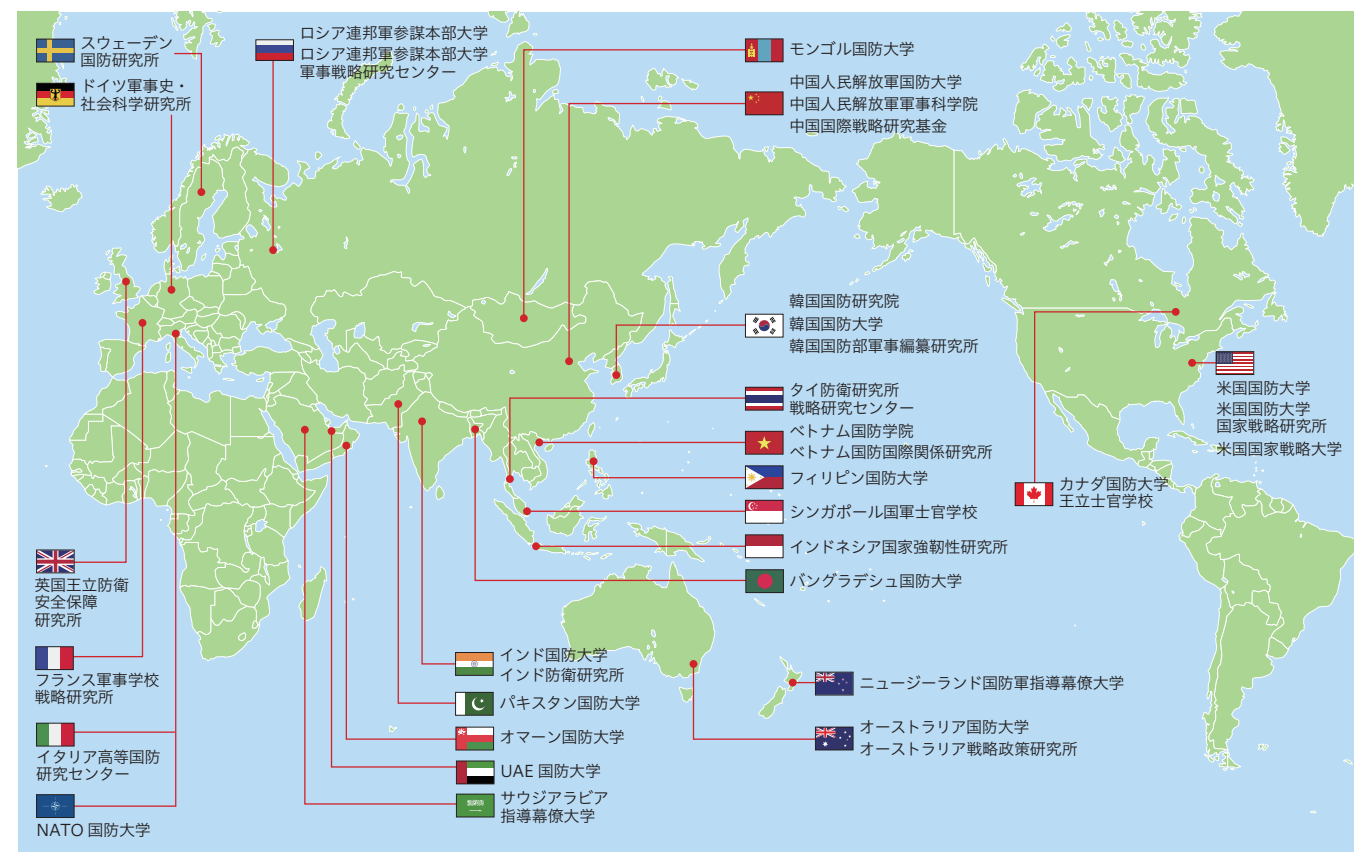
政策シミュレーション

国際交流

研究・教育における交流状況

防衛研究所では、研究者の研究能力向上を目的として、主に中堅-若手クラスの研究者を海外の研究機関や大学に派遣しています。また、研究・教育の質の向上や研究者同士のネットワーク構築のため、海外から研究者を受け入れるフェローシップや客員研究員制度を設けています。

また、防衛研究所は、安全保障シンクタンクとして、各国の安全保障・国防研究機関との間で定期的な相互訪問等を積極的に推進しています。教官交流や研修団の相互訪問も行っています。



研究・教育における交流実績

多国間の国防大学校長等会議への参加

防衛研究所は、毎年、NATO国防大学校長会議及びARF国防大学校長等会議にも参加し、各国の国防大学校長等との幹部レベルでの交流を実施しています。

ARF国防大学校長等会議で
発表を行う富崎副所長



国際会議の主催

毎年、安全保障や戦史に関する国際会議を主催しています。国際問題や地域の問題、政策上の課題など幅広く時宜を得たテーマを扱います。

安全保障国際シンポジウム

1985（昭和60）年に国際共同特別研究会として始まり、1999（平成11）年に現在の名称に改称されました。国内外から著名な有識者を招へいし、一般公開し、政府・軍関係者から研究者・専門家、報道関係者、一般の方々まで幅広く参加して頂いております。



安全保障国際シンポジウム（2025年12月）

戦争史研究国際フォーラム

2002（平成14）年、戦史に関して多角的な視点から再検討を行うことを目的として開始されました。各国の研究者が戦史に関する研究成果を発表し、戦史に関する知見の交換や相互信頼の向上を狙いとしています。



戦争史研究国際フォーラム（2025年10月）

コネクションズ・ジャパン

2022（令和4）年から知的基盤の強化の一環として、各国の政策シミュレーション専門家と知見を共有し、最新の政策（戦略）シミュレーション手法を習得、さらに発展させ、政策支援及び教育支援を拡充する目的で開催しています。



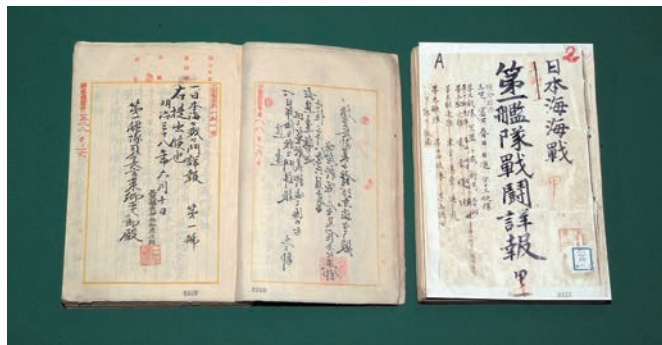
コネクションズ・ジャパン（2026年1月）

戦史史料の公開

戦史研究センター史料室

戦史研究センター史料室は、日本陸海軍に関する我が国最大のアーカイブズです。

陸海軍の公文書を主とした関連史料を多数保管し、広く一般の利用に供しています。なお、所蔵史料は、史料閲覧室で、またその一部は国立公文書館アジア歴史資料センター及び防衛研究所のホームページからご覧いただけます。



日本海海戦の戦闘詳報



大本営陸軍部の命令

史料閲覧室

開館時間：9時から16時30分（入館は16時まで）

休館日：土曜日（開館する土曜日（月1回）を除く）・日曜日、開館した土曜日の翌週最初の月曜日

所在地：〒162-8808
東京都新宿区市谷本村町5番1号

電話：03-3260-7102（直通）



●アクセス

都営大江戸線牛込柳町駅から徒歩約9分
JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩約13分

都営バス（薬王寺町停留所）白61系統から徒歩約3分

（入門は、防衛省敷地北側の加賀門のみとなります。）

史料室の取り組み

●情報発信

防衛研究所HPなどで、史料室の活動や戦史叢書をはじめ所蔵史料等を紹介しています。

●人工知能（AI）を活用した史料のテキスト化

デジタル画像化した史料をAI-OCR（光学文字認識）によりテキストデータに変換、さまざまな活用を目指しています。

研究成果の発信

防衛研究所は、出版物の刊行や各種公開セミナーの開催を通じて、研究成果の発信に努めています。近年の出版物と各種会議の報告書は、防衛研究所のホームページからご覧になれます。また、X（旧Twitter）の公式アカウントや公式YouTubeチャンネルからも、防衛研究所の活動についてご覧いただけます。

出版物

中国安全保障レポート

防衛研究所の研究者が独自の視点から中国の軍事・安全保障動向を分析しています。毎年1回、日本語版、英語版及び中国語版を刊行しています。



中国安全保障レポート
2026

安全保障戦略研究

日本における安全保障に関する学術研究の発展及び国民への知識の普及に寄与することを目的として、2020（令和2）年に刊行された専門的な学術誌です。日本語で年2回、英語で年1回刊行しています。



安全保障戦略研究
（2026）

NIDS Research & Analysis

複雑な事実関係の整理・解説から本格的な分析の成果まで、現代の安全保障課題の理解に資する多様なコンテンツをウェブ上で随時発信していく、新しい形のレポートシリーズです。



NIDSパースペクティブ

地域や政策領域を横断すると共に、時間軸と空間軸を交錯させた研究視角によって世界の戦略トレンドを分析する研究書籍シリーズです。毎年1回、日本語版及び英語版を刊行しています。



NIDSパースペクティブ
（2026）

戦史研究年報

戦史に関する研究論文、戦史研究センターの活動並びに、戦史史料に関する情報を掲載して、刊行しています。



戦史研究年報（2026）

NIDSコメンタリー

その時々安全保障問題等について、研究者による時宜に合った分析を提供しています。





防衛省 防衛研究所

〒162-8808 東京都新宿区市谷本村町5-1

TEL : 03-3260-3019 (総務課)

URL : <https://www.nids.mod.go.jp>



防研X
(旧Twitter)



防研Webサイト
(トップページ)



防研YOUTUBE
チャンネル